

人権ほっと28年7月号

「男らしさと女らしさ」

大阪教育大学准教授

安達 智子

バイク屋の〇〇さんは、メカに強くて頼れる人物です。趣味はお菓子教室で習ったケーキを子どもたちと一緒に焼くことです……。頭に「？」が浮かんだ人はいますか？何故でしょう。

そうです！前半に出てくる〇〇さんの説明には、バイク、メカに強い、頼れるなど、男らしいキーワードが並んでいました。それが後半になると、お菓子教室、ケーキを焼くなどと、女らしいものに切り替わりました。だから、〇〇さんが男性なのか、女性なのかが分からなくなったのではないのでしょうか。

このようなことが起きるのは、「男はくである」「女はくだ」と、私たちが男らしさや女らしさについて期待や信念、思い込みをもつからで、これをジェンダー・ステレオタイプと呼びます。皆さんも「男は逞しく、女は優しく」

「男は支配し、女は従う」などを耳にしたことはありませんか。古くさい表現に聞こえるかもしれませんが、私たちの見方や行動にもこれらのステレオタイプが影響を及ぼします。

たとえば「男は支配し、女は従う」というステレオタイプをもつ女性は、リーダーになる事をためらい、同じステレオタイプをもつ男性は、女性の上司をもつことに抵抗を感じるでしょう。また、こうした考え方をする人が引っ込み思案な男性をみると「男のくせに情けない」、女性リーダーをみると「女のくせに出すぎだ」などと批判をすることがあります。このように、世の中で行われている人物評価や批判をみると、ステレオタイプの影響を受けているものが少なくありません。皆さんも、自分や人の行動について考えるときに、このステレオタイプが悪さをしていないかをチェックしてみましよう。